

「才能」か「努力」か!?

校長 松本 雅史

せんしゅう きんようび ねんせい ごしょうあか おこな
先週せんしゅうの金曜日きんようびは、3年生ねんせいが五小灯りまつりごしょうあかを行おこなってくれました。
100こを超える地口行灯じぐちあんどんが、校庭こうていにゆらめく美うつくしく優やさしい光ひかりに思おも
わずうっとりしました。それぞれの灯籠とうろうには、趣向しゅこうを凝こらしたしゃれ
が書かかれていて、一つ一つととも見応えみごたがありました。街まちのイルミネ
ーションもいいけれど、こうしたらうそくの優やさしい光ひかりもしみじみとし
ていいものだなと思おもいました。3年生ねんせいの皆みなさん、本ほん当とうにありがとうご
ざいました。

さて、話はなしは変わりますが、「才能さいのう」という言葉ことばを皆みなさんは知しってい
ますね。「君きみは頭あたまがいいね、算数さんすうの才能さいのうがあるよ」とか「音楽おんがくの才能さいのう
があるよ」「才能さいのうを伸ばそう」というふうに使つかいます。もともと生うまれ
ながらに持もっている力ちからのことをいうようです。そりゃ、人ひとはそれぞれ
ですから、誰だれでも他人たにんよりちょっとよかったり、ちょっと苦手にがてだつた
りということはあつて当然とうぜんですね。

才能さいのうとよく引き合ひいに出あされるのが「努力どりよく」です。この「努力どりよく」をす
るしないは個人こじんの自由じゆうです。そこで、質しつもん問もんです。

A「もともと持っている才能さいのうが一番いちばん大事だいじで、努力どりよくによってそれほど変か
わるものではない」

B「才能さいのうというものは、実じつは大たいしたことはなくて、努力どりよくこそがその人ひと
の伸のばす」

みな 皆さんは、どちらの かんが ちか 考えに近いですか？

きょう 今日、どちらの かんが かた ただ 考え方が正しいのかという はなし 話 ではありません。

どちらの かんが かた も 考え方を 持つか によって、その人の ひと みらい おお か 未来が 大きく 変わって くる という はなし お話 です。

たと 例えば、パズルを すると しましょう。はじめに だれ 誰でも でき そう な もの を や っ て み て、だんだん むずか 難 しく して いきます。Aの人とBの人とでは、こうどう ちが で 行動に 違いが 出て きます。いよいよ むずか もんだい で あ とき ひと 難 しい 問題と 出 合 っ た 時、Aの人は、「こんなことを しても い み 意味はないよ」と あっ さ り と あ き ら め て し ま い ます。それに対してBの人は「 むずか もんだい だ い す 難 しい 問題 っ て 大 好 き だ ！ これを や る と き っ と あ た ま が よ く な る よ 」 と ね ば つ よ かんが ひと 粘 り 強 く 考 え ま し た。Aの人は「や ら ない」とい う みち えら 道 を 選 び、Bの人は「 ひと ちょうせん たの みち えら 挑 戦 を 楽 し む 」 と い う 道 を 選 び ま し た。

ひと Aの人は、自分の じぶん のうりよく こていてき か おも 能力は 固 定 的 で 変 わ ら ない と 思 っ て い ます から、じぶん 自分が できる こと を じぶん く かえ しょうめい 繰り返 し 証 明 し ない と い ら れ ま せ ン。この人は、ひと 人より すぐ おも あんしん 優 れ て い る と 思 う こと で あんしん 安 心 し ます。そして、すぐ 優 れ て い る こと で、ひと 人から ほんけい たいせつ 敬 重 さ れ 大 切 に さ れ る こと を きたい ひと 期 待 し ます。この人にとって、しっぱい 失敗は それ こ そ 一 大 事 だ す。でき ない 人 と 思 わ れ て し ま い ます。この人にとって しっぱい 失敗は、とき すべ うしな 時 に 全 て を 失 う こと に も な っ て し ま い ます。だから、だんだん ちょうせん 挑 戦 し な く な り ます。し た と し て も、じぶん 自分 の できる はんい なか 範 囲 の 中 での ちょうせん 挑 戦 し か し ま せ ン。

それに対して、Bの人は、努力すれば人はいくらでも伸びると信じていますから、失敗しても落ち込んだりしません。つまりきを失敗とは考えず、何かを学び取るチャンスだと思っています。

スタートは一緒でも、Aの考えで生きるか、Bの考えで生きるかで、未来が大きく変わってきてしまいます。

自分がAタイプかBタイプかは、こんな時にはっきり出ます。ちょっと友達にそっけなくされたり、先生や親から注意されたり、思うような成績でなかったり、何かに失敗してしまったり・・・

Aの人は、こうしたことごとくに落ち込み怒ります。そして、自分は大めだと落ち込んだり、「あの人が悪い」「あの人は分かってくれない」と相手を責めたりしてしまいます。Bの人は、少々落ち込むことはあっても、何を気をつければいいか分かったからもう失敗しないようにしようと、前向きになれます。自分をだめだなんて決めつけたり、あきらめたりしないで、失敗を恐れず努力を続けていくのです。

担任の先生は、皆さんに「勇気を持って挑戦しよう」とか「失敗することを恐れるな！失敗を恐れて挑戦しない方が失敗だ！」ということを繰り返し繰り返し教えてくれていることと思います。それは、人は努力次第でいくらでも未来を切り開いていけると、一人一人に無限の可能性を感じているからだと思っています。自分の可能性を一番信じなくてはいけなのは、自分自身です。2学期もいよいよまとめに時期に入ります。ラストスパートにふさわしい挑戦をしてまいりましょう。